

# 土砂防 だよりの



ひまわり (忍野)

支部長就任のご挨拶 .....	2
<b>静岡県支部通常総会開催</b> .....	3
斉藤前静岡県支部長の足跡 .....	4
<b>土砂災害防止月間活動</b>	
●土砂災害防止推進の集い(全国大会)IN静岡…	5
●「土砂災害に関する絵画・ポスター・作文」……	7
○優秀作品の表彰	
●「砂防フェスティバルしずおか」開催 .....	10
●急傾斜地パトロールの協働実施 .....	11
インフォメーション .....	12
わがまちの砂防 .....	14
(戸田村・中川根町・小笠町・雄踏町)	
募集・お知らせ .....	16

## 特集 第58回 全国治水砂防協会 静岡県支部総会

### H15 土砂災害防止月間活動 土砂災害防止推進の集い(全国大会)IN静岡



全国治水砂防協会静岡県支部

# 支部長就任のご挨拶

全国治水砂防協会静岡県支部

支部長 石川 嘉延



このたび、全国治水砂防協会静岡県支部長をお引き受けするに当たり、一言御挨拶申し上げます。

私は、当協会役員の皆様の御推薦を頂いて、昭和15年に設立以来、60年以上の歴史を持つ全国治水砂防協会静岡県支部の支部長をお引き受けいたしました。その責任は、大変重いものであると感じております。

斉藤前支部長には、昭和57年に就任されて以来、21年間という長きにわたり支部長として砂防事業の普及、発展に努められたことに改めて敬意を表するとともに、心より感謝申し上げます。

さて、静岡県は県土の7割以上が山地で占められ、急峻な山地やがけ地が多い上に、断層や破碎帯が発達した脆弱な地質が広く分布しているため、土砂災害危険箇所が数多く存在し、過去にも多くの災害に見舞われてまいりました。

一方、土砂災害防止施設の整備率は平成14年度末で22%と依然として低い状況にあり、今後も引き続き施設整備としてのハード対策を進めるとともに、警戒避難体制の整備等のソフト対策を合わせた総合的な土砂災害対策を推進する必要があります。

静岡県は、県政の基本理念に「富国有徳」の魅力ある地域づくりを掲げておりますが、この実現のため、県民の生命や安全を脅かす土砂災害の発生を未然に防止し、被害を軽減する施策を積極的に推進し、「安全社会づくり」に努めてまいりたいと考えております。

結びに、斉藤前支部長をはじめ先輩諸氏の志を継承し、役員や会員の皆様の御支援、御協力を頂いて、静岡県の砂防事業の一層の拡充、促進に努めてまいりますので、よろしくお願い申し上げます。

## 歴代静岡県支部長

初代支部長	宮本 雄一郎	昭和15年 2月25日	～	昭和21年 5月 9日
第二代支部長	河井 彌 八	昭和21年	～	昭和35年 7月21日
第三代支部長	戸塚 九一郎	昭和35年11月11日	～	昭和48年10月13日
支部長代行	山口 森 三	昭和48年10月	～	昭和49年11月12日
第四代支部長	竹山 祐太郎	昭和49年12月27日	～	昭和57年 7月 7日
第五代支部長	斉藤 滋与史	昭和57年12月23日	～	平成15年 5月30日
第六代支部長	石川 嘉 延	平成15年 5月30日	～	現在



新支部長に石川嘉延県知事を承認

# 静岡県支部通常総会を開催

5月30日に、全国治水砂防協会静岡県支部の平成15年度（第58回）通常総会が、静岡市内のグランドホテル中島屋で開催されました。

総会は、副支部長の原田袋井市長の挨拶にはじまり、亀江国土交通省保全課長、石川知事、水口県議会議員、全国治水砂防協会理事齊藤斗志二衆議院議員、大久保全国治水砂防協会理事長よりご祝辞をいただきました。

この後、議案の審議が行われ、平成14年度事業報告・収支決算報告、平成15年度事業計画・収支予算等が承認されました。続いて、役員の変更が行われ、新役員が承認されました。

昭和57年より21年間にわたり静岡県支部長を勤めていただきました齊藤滋与史氏が退任され、新支部長に石川知事が就任することが承認されました。また、齊藤前支部長に感謝状と記念品を贈ることが承認されました。

総会終了後、亀江保全課長から「最近の砂防行政について」、榎嶋静岡地方気象台長より「気象と土砂災害」についての講演をいただきました。



国土交通省亀江保全課長の祝辞



新しい支部長に就任した石川知事

## 平成15年度 事業計画の概要

- 1 砂防事業の周知・啓発・普及
  - ① 国・県の実施する事業への協力
    - 「土砂災害防止推進の集い(全国大会)」への協力
  - ② 会員による先進地視察研修の実施
    - 青森県の砂防事業現地視察
  - ③ 砂防関係担当職員に対する研修会の開催
    - 市町村等砂防担当職員研修会の開催
    - 土砂災害防止法講習会の開催
  - ④ 他機関の実施する講習会等への参加
- 2 砂防事業促進要望の実施
- 3 「砂防だより」や砂防関係図書の発行
- 4 全国治水砂防協会等への協力

## 平成15年度 全国治水砂防協会 静岡県支部役員顔ぶれ

支部長		顧問		副支部長		会計監査役		
県知事 石川 嘉延	土木部長 櫻井 克信	袋井市長 原田 英之	富士宮市長 小室 直義	河津町長 櫻井 泰次	河津町長 櫻井 泰次	河津町長 櫻井 泰次	春野町長 伊藤 晋一郎	
委員								常任幹事
静岡市長 小嶋 善吉	三島市長 小池 政臣	伊東市長 鈴木 藤一郎	島田市長 桜井 勝郎	焼津市長 戸本 隆雄	小山町長 長田 央	相良町長 杉山 年男	引佐町長 長山 芳正	砂防統括監 山崎 省一

◆長い間ご苦勞様でした！

全国治水砂防協会静岡県支部事務局

## 斉藤前支部長の足跡



斉藤前支部長は、昭和57年12月に故竹山祐太郎第4代支部長が御逝去された後、第5代支部長として就任されました。

就任当時は、現職の国会議員であられましたが、当時の就任挨拶で「この協会は、私の大先輩、河合弥八先生の偉業であり、さらに、戸塚九一郎先生、そして、竹山祐太郎先生が支部長を努められております。私も砂防関係の議員でありますので、後をお継ぎするのが後輩の勤めと心得、この重任をお受けしたわけであります。」と述べられたように、建設大臣も経験され、元々治山治水について大きな関心を持たれ、機会ある毎にその重要性を訴え、砂防事業の促進に努められておられたこともあり、快く引き受けられました。

就任後は、支部長として21年間という長きにわたり支部長として砂防事業の普及、発展に努めてこられました。特に、昭和61年6月から平成5年までは、静岡県知事として砂防事業のさらなる促進にご尽力されました。

斉藤前支部長が歩まれた時代は、ちょうど昭和57年の長崎の集中豪雨災害を機に、翌年から「土砂災害防止月間」の実施に始まり、平成3年の伊豆南部局地的豪雨災害、昨年静岡の砂防100周年記念事業、また今年の静岡県での「第21回土砂災害防止推進の集い(全国大会)」の開催までの静岡県の砂防事業が大きく飛躍した時期と重なります。

近年は、支部総会に欠席されがちであり、会員の皆さんに元気な様子を見せられないことをとても残念がられておりましたが、砂防事業の促進への熱意は今だに衰えることはありませんでした。

なお、長年にわたり、当支部の活動にご尽力を頂いた斉藤前支部長の功績をたたえ、静岡県支部総会の同意に基づき、先日、静岡県支部より感謝状と記念品を贈呈いたしました。

斉藤前支部長、長い間ほんとうにご苦勞様でした。



## 全国治水砂防協会通常総会開催される

5月21日に、(社)全国治水砂防協会の平成15年度(第67回)通常総会が、砂防会館別館(東京都)で開催されました。

当日は、会員多数出席のもと、斉藤斗志二衆議院議員、竹山裕参議院議員をはじめ多くの国会議員が来賓として出席されました。当支部からは会計監査役の櫻井河津町長をはじめ26名の会員にご出席をいただきました。

総会は、綿貫会長による主催者の挨拶、中馬弘毅国土交通副大臣の祝辞に続き、議事では平成14年度事業報告・収支決算報告、平成15年度事業計画・収支予算が承認されました。次に、役員の変更の審議が行われ、新役員を選出が行われました。斉藤斗志二衆議院議員が理事に、斉藤滋と史静岡県支部長(5月21日現在)、原田袋井市長が評議員に再選されました。



**【参加市町村】** 東伊豆町、河津町、賀茂村、韮山町、天城湯ヶ島町、中伊豆町、小山町、富士宮市、島田市、岡部町、金谷町、川根町、中川根町、本川根町、掛川市、袋井市、浜岡町、森町、浅羽町、豊田町、天竜市、春野町、佐久間町、水窪町、引佐町、三ヶ日町 (太字は会員本人の参加)

特集

平成15年度

6月1日～30日

# 土砂災害防止月間活動

毎年、各地で発生する土石流、地すべり、がけ崩れなどの土砂災害により、多くの人命・財産が失われています。そこで、国土交通省と静岡県では、梅雨時で雨量が多く地盤がゆるみ土砂災害が発生しやすい6月を「土砂災害防止月間」として、土砂災害に関する防災知識の普及と警戒避難体制の整備を促進するため、様々な行事を実施しました。

## テーマ “くらしのなかの土砂災害防止”

1

## 平成15年度 (第21回) 土砂災害防止推進の集い(全国大会) IN 静岡

昭和57年長崎の集中豪雨災害をきっかけに、翌年から行政と住民が一体となって土砂災害防止に努める必要をアピールすることを目的として、毎年開催されてきた「土砂災害防止推進の集い(全国大会)」を去る6月4日～5日に静岡県で開催しました。

### 【開催日時および会場】

#### ●土砂災害防止推進の集い(全国大会)

日時/6月4日(水) 13:30～17:00  
会場/グランシップ 中ホール「大地」  
内容/ 1) 式典  
2) 講演・シンポジウム

#### ●現地研修会

日時/6月5日(木) 8:30～  
コース/ A) 大谷崩れ  
B) 富士山麓  
D) 静岡市都市山麓グリーンベルト

## ■式典

式典には来賓として、公務の多忙な中、斉藤衆議院議員、小野県議会副議長、小嶋静岡市長をお招きし、大石国土交通省技監、石川県知事、岡本国土交通省砂防部長、清治中部地方整備局長、櫻井県土木部長をはじめ、約1,000名の方々にご出席頂きました。主催者である副国土交通大臣の代理として大石技監の挨拶に続き、石川県知事の開催地挨拶が行われました。

挨拶に続き、土砂災害防止功労者の表彰が行われ、1個人3団体が表彰されました。本県からは、土砂災害防止施設内における美化・清掃に努めている「桃沢川から愛鷹山を考える会」(静岡県駿東郡長泉町)が表彰されました。



国土交通省大石技監の挨拶



表彰式「桃沢川から愛鷹山を考える会」

## ■特別講演



小和田哲男教授の特別講演

式典に続き、NHKテレビ「そのとき歴史は動いた」等に出演し、お茶の間でも有名な戦国時代史研究の第一人者である小和田哲男静岡大学教授による特別講演「戦国武将の治山治水と静岡の自然災害」が行われました。

全国的に有名な熊本県の「清正堤」や山梨県の「信玄堤」の話に始まり、静岡県内の話題として、今川義元の築堤や、伊豆の後北条氏の治山等についての紹介があり、戦国時代にも、河川の上流から下流までの一貫した管理が重要視されていたこと、また、権力任せにせず、地域住民の自主的な努力が自然災害の被害を最小限にとどめてきた歴史があったことなど、現在に相通ずるものがあることを紹介していただきました。

## 特集 土砂災害防止 月間活動

### ■ シンポジウム

特別講演に続き、「くらしのなかの土砂災害防止」～地域、歴史、文化につちかわれた自主防災活動～をテーマにシンポジウムが行われました。

コーディネーターには、防災評論家で富士常葉大学教授の吉村秀實さん、パネリストとして、気象学者で元気象庁天気相談所所長の宮澤清治さん、広島市安佐南区沼田町伴地区自主防災会連合会副会長の原田照美さん、NPO法人福井県砂防ボランティア協会理事の山本迪さん、小嶋善吉静岡市長、また、コメンテーターとして岡本正男国土交通省砂防部長を迎え、土砂災害に対する自主防災活動の重要性や、今後の砂防行政との関わりなどについて活発な意見が交わされました。

シンポジウムの後、櫻井県土木部長より参加された皆さんへ御礼の気持ちを込めた閉会の挨拶がありました。



シンポジウムの様子

### ■ 現地研修会

6月5日に、Aコース（大谷崩れを中心とした安倍川流域、参加者60名）、Bコース（大沢崩れを中心とした富士山麓、参加者117名）、Dコース（静岡市都市山麓グリーンベルトを中心とした静岡市内、参加者40名）の3コースで現地研修を行いました。当日は、快晴に恵まれ、各コースとも盛況のうちに終わりました。



Aコース（大谷崩れ）



Dコース（三保の松原）

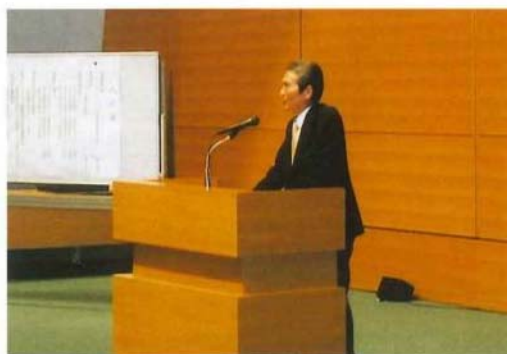
### ■ 関連行事

① 6月3日に、「砂防関係工事現場代理人の会総会」並びに「砂防関係工事安全施工管理技術研究発表会」が静岡市梅ヶ島小中学校体育館で開催され、約230人が参加しました。



岡本砂防部長の挨拶

② 6月4日午前、「砂防ボランティア全国のつどい」がグランシップで開催され、福井、大阪、長崎、千葉各府県のボランティア協会の活動報告、斜面判定士認定証の授与等が行われました。



長川静岡県ボランティア協会長の閉会挨拶

### ● 大会を振り返って

大会を開催するにあたり静岡県らしさを演出するために、静岡県が全国に誇れるものを会場に取り入れるなど工夫を凝らしました。その例として、①開会前のピアノの生演奏（ピアノの出荷額日本一）、②新茶の試飲場の設置（お茶の生産額日本一）、③バラの花による会場の装飾（バラの作付面積日本一）等。又大会テーマや特別講演の講師など、静岡県らしさを演出できたのではないかと考えています。

今大会の開催にあたり、ご多忙のなか、国土交通省をはじめ各関係機関の皆様へ全国から多数のご参加をいただき、盛大に開催することができました。改めてお礼申し上げます。

## 2 「土砂災害に関する絵画・ポスター・作文」優秀作品の表彰

平成14年度に県内の小中学生の皆さんから「土砂災害に関する絵画・ポスター・作文」を募集したところ、51校113作品の応募がありました。多数の応募ありがとうございました。

応募作品のうち8作品が特に優秀と認められたため、6月22日の「砂防フェスティバルしずおか」の会場（静岡県青葉公園）で行われた表彰式において、入賞者の方々に境国土交通省静岡河川事務所長、大池県土木部技監から表彰状と記念品が授与されました。



受賞者のみなさん

### 【応募状況】

部 門	小学校	中学校	合 計
絵 画	15	6	21
ポスター	31	42	73
作 文	5	14	19
合 計	51	62	113

賞	作品	氏 名	学 校 名	学年
国土交通事務次官賞	絵 画	水野 督志	静岡市立中島中学校	1年
	作 文	鈴木 里嘉子	富士市立元吉原中学校	1年
	作 文	芦澤 美咲	佐久間町立浦川小学校	6年
国土交通省砂防部長賞	ポスター	鈴木 ますみ	竜洋町立竜洋中学校	1年
静岡県知事賞	ポスター	傳田 悠布子	浜松市立佐鳴台中学校	3年
静岡県土木部長賞	絵 画	小泉 友香	静岡市立梅ヶ島小学校	3年
全国治水砂防協会 静岡県支部長賞	絵 画	加藤 洋朗	細江町立細江中学校	2年
	ポスター	小林 佳澄	富士市立吉原第一中学校	1年

## 土砂災害に関する 絵画・作文・ポスターの募集

静岡県と国土交通省では、土砂災害及びその防止についての理解と関心を深めていただくために作品を募集しています。

【募集対象】 小中学校生

【課 題】 〈絵 画〉

身近で発生した土石流、地すべり、がけ崩れなどの土砂災害の体験やようす、砂防えん堤・がけ崩れ防止施設などの土砂災害防止施設など。サイズ、書き方は自由。

〈ポスター〉

土砂災害の恐ろしさが伝わるもの。または砂防えん堤・がけ崩れ防止施設などが土砂災害防止に役立っていることが理解できるもの。サイズ、書き方は自由。

〈作 文〉

土砂災害に関する体験、土砂災害対策と環境との調和などへの意見、または土砂災害防止施設の見学の感想など。400字詰め原稿用紙5枚以内（ただし、小学校低学年は2枚程度、小学校高学年は4枚程度）。

【応募期間】 6月1日～9月15日

【応募方法】 作品には応募者の学校名、学年、氏名を明記して下さい。

【応募先・お問い合わせ】

〒420-8601 静岡市追手町9-6 静岡県土木部砂防室 土砂災害対策スタッフ  
TEL/054-221-3042 FAX/054-221-3564

■ 国土交通事務次官賞【作文】

総合的な学習から

鈴木 里嘉子さん <富士市立元吉原中学校1年>

私は迷っていました。総合的な学習の時間に、何を探求するかを。そんな時、担任の先生が、「富士山のことを調べてみたらどうかな。美しいだけではない、富士山の違う面が分かると思うよ。」とアドバイスして下さいました。図書室で資料を見ていると、大沢崩れのことをできました。私は、恥ずかしいことに、それまで大沢崩れのことを知りませんでした。砂防ダムのこと知りませんでした。全国で、毎年900件以上の土砂災害が発生していることも知りませんでした。富士山の見える所に住んではいても、海が近い私の地域では、津波や高潮という言葉の方が、気になることだったからかもしれません。正直、「土砂災害」を他人事としてとらえていたのです。

しかし、大沢崩れについて調べていくうちに、土砂災害がどれほど危険かが分かり、恐ろしくなりました。また、大沢崩れと私の住んでいる元吉原には、大きな関係があることも分かりました。富士山の大沢崩れからの土砂が、大雨などによって、大沢川から潤井川に流れ込み、田子の浦港まで達するからです。実際、昭和47年5月1日に、泥流が田子の浦港まで流れたのです。

大沢崩れは、千年も前から始まり、毎年少しずつ崩れており、その量は、1年で約20万立方メートルもの土砂であるとか。私は、改めて富士山を通して自然の荒々しいすごさに驚きました。日本の河川は急流で、雨が多いので土砂災害が起きやすいとよく言われます。危険は、身近なものなのです。富士山には雪も降ります。雪崩や雪どけの折も、土砂の流出はさらに進むでしょう。それに、地震によっても土砂災害は起きます。東海地震が起きるのではないかとわれている今、私たちは、そのことも考えなければならないわけです。

私は、母に「大沢崩れって知っている？」と聞いてみました。母はのんびりと「名前は知っているわよ。」と答えました。祖母は、「私は、昔、おじいさんと大沢崩れを遠くから見たことがあるよ。どこだったかねえ。」と言いました。私が調べたことを母や祖母に説明していると、父が、「よし、大沢川へ連れて行ってやろう。」と言いました。

大沢川に着くと、大きなダンプカーが何台も忙しそうに通っているのが見えました。

「あれで、流出してきた土砂を運んでいるんだよ。」と父が言いました。護岸工や床固工なども見ました。土砂の急激な流出を緩和し、私たちの生活の安全を守ってくれているんだなと思うと、何だか「ありがとう。」と言いたい気持ちになりました。絵を描くのが好きな私は、美術部の部活動で、その砂防ダムを描きました。

描きながら、改めて土砂災害の写真を見ました。家や橋、道路、皆全て土砂に埋まっていました。裏山が崩れて家が壊れている写真もありました。胸が痛みました。なぜなら家の近くの楽しい思い出もあるだろう裏山が、突然崩れてきて、自分の家を押つぶしてしまったら、こんな悲しいことはないだろうと思ったからです。

「この元吉原の北にある須津地区を流れる須津川は、元吉原の沼川に合流するんだけど、須津川には、富士山のお隣にある愛鷹山の土砂が流出してきているのよ。知っていたかな。」と、私の絵を見ながら、私に富士山のことを探求してみたらとすすめて下さった先生が言われました。先生のお話によると、先生の前々任校である田子浦中学校、前任校である須津中学校で、先生はクラブ活動や部活動の時間に、生徒と土砂災害について調べ、勉強されたのだそうです。砂防ダムを見学しての生徒の感想を文集にして、地域にも配られたそうです。それは、須津川に建設を予定されていた建設省(当時)による砂防ダムへの理解へつながったとのことでした。

私は、そのお話をうかがいながら、総合的な学習を通して知ったことを、ただまとめるだけで終わらせてはいけないなと思いました。学級や学年の皆に、大沢崩れのことや砂防ダムの存在、土砂災害の恐ろしさを知ってもらい、少しでも土砂災害防止のための備えを進めてもらえるような発表をしなければと、同時に思いました。

富士山は、富士市民、静岡県民、いいえ日本の自慢です。守っていききたいとしみじみ思います。私の家も、私の地域も守っていききたいです。



国土交通事務次官賞【絵画】

水野 智志さん

<静岡市立中島中学校1年>



国土交通省砂防部長賞【ポスター】

鈴木 ますみさん

<竜洋町立竜洋中学校1年>



静岡県知事賞【ポスター】

傳田 悠布子さん

<浜松市立佐鳴台中学校3年>



■ 国土交通事務次官賞【作文】

感謝されている土砂災害防止壁

あしざわ みさき  
芦澤 美咲さん〈佐久間町立浦川小学校6年〉

今年は、例年に比べて台風のくるの多いそうです。7月10日の朝、いつものように登校すると、間もなく先生から「大雨洪水警報」が発令されたこと、下校途中や下校後の注意などがあって、すぐ集団下校しました。

夕方テレビを見て、びっくりしました。私が生まれ、そして保育園へ通っていた岐阜県大垣市の家々が、屋根近くまで茶色の泥水につかっている様子が、映っていました。

集中豪雨で、いび川の支流が氾濫して500軒以上も床上浸水したそうです。保育園の頃のお友達や近所に住んでいた人達を心配していると、被災者は全員市内の学校や公民館などに避難して無事だったことが、テレビで放送されたので、ほっとしました。

現在住んでいる浦川の家も、父が小学生のとき、3回も床上浸水があったそうです。その後、護岸工事や川にたまった砂利を運び出してもらったので今は、もう大丈夫だそうです。

洪水による浸水もこわいけれど、もっとおそろしいのは「土砂災害」だと思います。6号だったか、8号台風だったか忘れたけれどテレビで集中豪雨のため、山はだが崩れ落ちて、泥水のすごい力が、太い木や岩や土砂を押し流し、家や道路や田畑などに大きな被害があったことを知って、こわいなあと思いました。それに逃げおくれた人が土砂の中に埋まってしまい行方不明だそうです。

いっしょにテレビを見ていた祖父が、「集中豪雨による土砂災害だ。気の毒に。」と同情するように言ってくれたけれど、私も同じ思いでした。

私の家から少し離れた所には、高く、厚いコンクリートの壁が続いて作られています。夏休みのある日、祖父にたのんでコンクリート壁の周りを、見学して歩きました。祖父は歩きながら、コンクリート壁について、説明してくれました。祖父は自治会の役員を長くやっていたそうですが、その頃から「地すべり危険区域」や、「急傾斜地崩壊対策」という調査が行われ、自治会長当時、コンクリート壁の工事が始まったそうです。

初めは、住民からいろいろな意見もあったけど、話し合っていくうちに、みんな協力してくれたそうです。この事業は10年間も続き今年の春完成したそうです。

土砂災害を防ぐ、コンクリート壁の下の方の厚さを測ってみて、びっくりしました。地上に出ている所で90センチもありました。完成した今では見えないけれど、底では厚さが2メートル近くあるかもしれません。

コンクリートの上の方にはH鋼という大きな鉄柱があり、それには太いワイヤや金網がついていました。土砂が落ちてきても、被害がないように、丈夫に出来ています。

コンクリート壁には、所々に階段がついていました。途中まで登ってみたいけれど、下を見たらこわくなって、足がふるえてきたので最上段まで登るのをあきらめ、一段一段気を付けながら降りました。

コンクリート壁の近くに住んでいるお年寄りが出てきて、祖父と話しているので、祖父の近くへ行くと、お年寄りは、「この工事をやってもらったので、大雨の夜も安心しておれます。ありがたいです。」と感謝していました。

地区のはしからはしまで、こんなに長い距離を10年間もかけて完成した、丈夫なコンクリート壁は、国や県や町など多くの皆さんの協力で、人間の生命や住宅、それに道路や田畑までも守ってくれます。

さっきのお年寄りのように、この地域に住んでいる人達は、土砂災害を防いでくれるコンクリート壁に感謝しながら安心して、生活しています。



静岡県土木部長賞【絵画】

こいずみ ゆうか  
小泉 友香さん

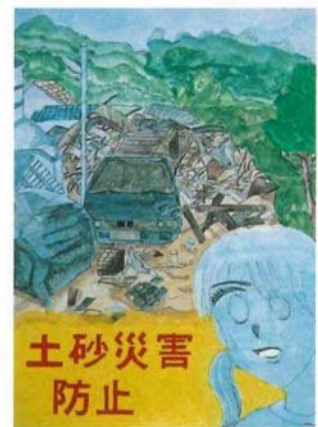
〈静岡市立梅ヶ島小学校3年〉



全国治水砂防協会静岡県支部長賞【絵画】

かとう ひろあき  
加藤 洋朗さん

〈細江町立細江中学校2年〉



全国治水砂防協会静岡県支部長賞【ポスター】

こばやし かずみ  
小林 佳澄さん

〈富士市立吉原第一中学校1年〉

### 3 「砂防フェスティバルしずおか」開催



砂防フェスティバル会場の様子

6月22日(日)に、土砂災害の恐ろしさや砂防事業の大切さを県民の皆さんに知っていただくために、静岡市青葉公園で「砂防フェスティバルしずおか」を開催しました。

このイベントは、国土交通省静岡河川事務所、沼津河川国道事務所、富士砂防事務所、静岡県、静岡市が主催し、土砂災害防止に関するパネルや模型の展示、砂防について学習するクイズラリー、土砂災害に関する絵画・ポスター・作文の表彰のほか、SBSラジオ「サマー・ヒット・チェーン」の公開生放送も行われました。

県からは、透過型えん堤の模型を使った土石流捕捉実験の実演や、国の登録文化財にも指定された木和田川（岡部町）石積えん堤完成当時の特大写真の展示をはじめ、土砂災害防

止に関する各種パネルの展示、啓発グッズの配布などを行いました。

梅雨時には珍しく好天に恵まれ、約2,000名にのぼる来場がありました。ひと目で土石流の恐ろしさがわかる富士砂防事務所や本県の模型

実験では、多くの皆さんが興味深く見学していました。クイズラリーと併せて行ったアンケートでも、「土砂災害の恐ろしさがわかった」、「砂防事業の大切さを理解した」等、土砂災害防止に関心を持っていただきました。



実験装置に興味深く見学する皆さん



静岡県のパネル展示

#### 【平成15年度】土砂災害防止啓発用品等の紹介コーナー



〈懸垂幕〉



〈マグネットシート〉



〈ティッシュ〉



〈マスコット〉



〈クリアファイル〉



〈絆創膏〉



〈スポンジ〉

●市町村等で啓発グッズを配布する機会がありましたら、用意がありますのでご相談下さい。

4

## 住民と砂防ボランティアの参加 急傾斜地パトロールの協働実施

急傾斜地崩壊危険区域として指定された区域は県下に970箇所あります。県では6月2日から20日までの間に土木事務所、行政センター、市町村、消防署および地域住民や砂防ボランティアと協働で、延べ903人を動員して、崩壊防止施設の異常、斜面の崩壊・亀裂の有無、排水路の機能状況などの防災点検を実施しました。

急傾斜地パトロールにより施設の破損や小規模の崩壊が確認された箇所については、今後早急に改善措置をとって参ります。



### ●急傾斜地パトロールに参加して

静岡県砂防ボランティア協会 森下則雄



人家の裏の整備の点検

当日(6月21日)は小雨の降る一日でしたが、参加者15名は「宇津ノ谷勝」に集合し事務所担当者より説明の後、パトロールを開始しました。

施設点検はもとより、危険区域、被害想定区域に居住する住民の方に①非常時における避難場所の周知徹底並びに再確認を兼ねた問合せ、②がけ崩れの恐れに関して懸念していること、③防災上対応して欲しいこと等、日頃の地域防災に関する意見の収集に努める行動に、地元静岡市の職員をはじめ参加者のパトロールへの意気込みを強く感じました。

パトロールは順調に進み最終の丸子井尻地区をもって現地点検を終了し、同地区で本日の反省を含んだ意見交換が行われました。この際、砂防ボランティアとしての発言の機会をいただき、広報活動が足りなかった

との自責の念が強まる中で、急傾斜地危険区域の現地標識に①標識設置の後の地域整備により現地状況が変わっている、②区域表示が不明瞭、等若干の修正が必要と判断される標識が見受けられたため、今後の検討をお願いしてパトロールを終了いたしました。本日の成果は、今後の防災行政を進める上で活かされるものと感じています。

5

## 土砂災害避難訓練の実施 (静岡市口坂本地区)

6月13日に、静岡市口坂本地区で、土砂災害避難訓練が地域住民22名、静岡市及び静岡県との協働により行われました。

この訓練は、土石流の発生を想定し、同報無線や戸別受信機による避難情報伝達と避難所への避難訓練を行いました。昨年に比べ、避難所への避難訓練など迅速な訓練が出来ました。

静岡県は、同地区を流れる坂本川、宇城川、亀久保川に、土石流センサーを8基、監視カメラを3基設置し、監視をしています。平成10年4月と同年7月及び平成12年9月にも土石流が発生しており、土砂災害防止に対する地元住民の関心も非常に高く、訓練後は地域の孤立化防止策などについて活発な意見交換が行われました。



訓練後の意見交換会

## 全国建設研修センター 平成15年度 地すべり防止技術研修の現場研修を本県で開催

5月12日に、(財)全国建設研修センター主催の地すべり防止技術研修の一環として、口坂本地区(静岡市)の現場研修が行われました。

この研修には、全国の地すべり調査及び対策工事に従事する若手技術者計56名が参加し、口坂本地区に設置されている対策工や、地すべり動態観測機器を見学しました。特に排水トンネル、RCセグメントを用いた集水井に関心が高く、研修生の皆さんは砂防室、土木事務所職員と熱心な意見交換を行いました。



集水井を見学する研修生

## 高知県議会議員団 県内砂防施設を視察

6月12日に、高知県議会総務委員会メンバー12名(内、事務局員2名)が県内の地震に関する施設の視察に訪れました。

最初に静岡県地震防災センターを見学した後、沼津市多比地内で急傾斜地崩壊対策事業により施行した津波避難地と津波避難路の現場に到着し、沼津土木事務所と砂防室の案内で高台の避難地と高台への避難階段に案内しました。各施設に対して議員の関心は非常に高く、熱心に見学されていました。



津波避難地で説明を受ける高知県議会議員団



急傾斜地崩壊対策事業により施行した津波避難地(沼津市)

## 愛知県治水砂防協会(市町村職員)が県内砂防施設視察



木和田川学習ゾーンを見学する一行

6月12日に、愛知県の市町村職員45名が県内の砂防施設の視察に訪れました。この視察は、愛知県治水砂防協会の主催により会員(市町村職員)の県外現地研修を行ったもので、木和田川砂防学習ゾーン、県地震防災センターを視察されました。

木和田川砂防学習ゾーンでは、砂防室職員が明治45年から大正3年にかけて行われた石積堰堤の歴史、周辺整備事業の概要、時代とともに変遷した旧東海道の話等を説明しました。

参加者からは、園路を歩きながら熱心な質問があるなど、訪れる人々に憩いと安らぎの場を提供するとともに、砂防事業に関する啓発を図っている施設に関心が寄せられました。

## ～静岡市都市山麓グリーンベルト～ 子供たちとグリーンベルト作業会の実施

4月13日に、都市山麓グリーンベルト（砂防樹林帯）の整備を進めている清水大内地区で、住民・ボランティアとの協働で竹の伐採、たけのこ掘りを行いました。これは、「第4回春の森づくり県民大作戦」（環境森林部）の一環としても開催されたもので、竹林拡大の元を絶つために企画されました。大内自治会、高部小PTAボランティア推進委員会、森林保護ボランティアグループ（S-GIT）、行政関係者に加え、今回は地元の学校（高部小、高部東小、清水第六中）の先生、父兄、子供たちも加わり、これまでで最も多い総勢203名の参加をいただきました。

大内公園に各自道具を持ち寄って集合し、S-GITからの作業についての講習のあと、天白沢に向かいました。

子供たちは、親竹を目にしなが、土から顔を出し始めたたけのこを掘り、各所で歓声があがりました。里山に溶け込む子供たちの笑顔が実にさわやかで、頼もしく、普段閑散とした山はとても賑わいました。

作業終了後、今年度から作業会の取りまとめを行っていた大木一範氏から、「自然を大切にしてほしい」との話があり、地元から提供された手作りこんにゃくとたけのこの刺身を味わい、たけのこ掘りは無事終了しました。

里山に行くのは楽しいと感じることが、里山づくりの原点だと思いました。



全員で記念撮影（天白沢にて）

### ● 竹林伐採の必要性 ●



- 平成15年 5月 7日 富士山ハザードマップ第8回活用部会（東京都）  
7日 砂防関係事業担当者会議（静岡県庁）  
20日 全国砂防主管課長会議（東京都）  
22日 全国地すべりがけ崩れ対策協議会総会（東京都）  
23日 東海地区土砂災害防止法担当者会議（名古屋市）  
28日 東海地区砂防課長会議（名古屋市）  
6月 16日 富士山ハザードマップ第9回活用部会（東京都）

# わがまちの砂防

## 戸田村

戸田村 産業建設課長 稲田隆次

戸田村は伊豆半島の西海岸に位置し、三方を達磨山山系に囲まれた、穏やかな気候と豊かな自然を有した村です。総面積は34.92km<sup>2</sup>と意外と広くその85%が山林原野の中で、約4,000人の村民が暮らしています。

その昔は、伊豆半島では珍しく温泉のない村でありましたが、昭和61年に第1号温泉井が湧出し、平成14年には御浜岬海岸にて新たに温泉が湧出しました。

地図にて戸田地区を見ると、真中を県道修善寺戸田線がまっすぐ通り、村道により格子状に街が区割され、まるで区画整理事業が実施されたかのように見えますが、こ



出逢い岬より富士山を望む



沢梅川砂防堰堤

れは昭和36年に発生した水害で、この地区が壊滅状態になったことによるものです。

すべての物を押し流してしまう土砂災害、村民の半数以上がこれを経験し、記憶に残しています。住民が安心して生活できるようこれからも土砂災害防止に努めていきたいと考えております。



## 中川根町

中川根町 地域整備課長 中島明男

静岡県のほぼ中央に位置し、豊かな自然に囲まれる中川根町。町の南北を大井川が流れ、その両岸に広がる日本一の味と香りを誇る川根茶の茶園。ここは江戸時代から知られる銘茶の産地。茶栽培の伝統と大井川の清流、恵まれた気候に生まれ、良質なお茶がつくられています。

地形的には、面積の87%が森林で町の中央を流れる大井川に支流が数多く注いでいます。その支流の一つ徳山地区に桃沢川という川があります。出水期になると幾多の氾濫を繰り返し、人々から「魔の沢」と恐れられていました。

この川も昭和25年から6ケ年の歳月をかけ砂防工事が実



桜花満開の桃沢川



田森地区急傾斜地崩壊防止施設

施され、その川の辺りに仙台石に「有備則無患」と刻まれた砂防記念碑が建立されています。その後、桃沢川は今日、災害に見舞われたことが嘘のように穏やかな流れの中、毎年春には護岸沿いの桜並木の花が一斉に咲き競い記念碑とともに地域の安全を見守っています。

また、この地区には町内三番目の田森地区急傾斜地崩壊防止施設が完備されています。今後とも砂防の里としての環境づくりに関係者各位のより一層のご支援ご協力をお願いいたします。



## 小笠町

小笠町 都市建設課長 田中安治

小笠町は、牧之原台地からなる丘陵地や、一級河川菊川流域の田園地帯など自然環境に恵まれており、町づくりの中では緑住快適タウンを目指しております。

しかし、町を取り巻く丘陵地の端部には、急峻ながけ地も多く、今だ豪雨のたびに崩壊の危険にさらされております。

既に、町内4箇所の急傾斜地崩壊対策事業が完了しており、平成14年度からは、「池田地区」「瑞泉ヶ谷」の2地区が継続事業として施行されております。また、通常砂防事業として「北之谷沢」が本年度から着手される運びとな



複合文化施設とおがさセントラルパーク



整備が進む池田地区急傾斜地崩壊防止施設

り、安全な町づくりに向けて地域住民の期待は大きいものがあります。同時に、県により「町土砂災害防災マップ・町ハザードマップ」を作製して頂きましたので防災情報として役立つものと思います。

今後も関係機関の皆様と力を合わせ災害防止と安全な町づくりに努めて参りたいと思います。



## 雄踏町

雄踏町 建設課長 中村恒夫

雄踏町は、静岡県西部、浜名湖の東岸に位置し、面積8.15km<sup>2</sup>と県下で2番目に小さい町ですが、自然を生かしながら地域に密着した町づくりを大切にしています。

浜名湖に接した地の利を活かし、約130年の伝統があるタキヤ漁があります。このタキヤ漁は、春から秋にかけて、日暮れから遠浅の浜名湖で、船の舳先に水中灯をともし、モリや網を使用し、カニ・エビ・魚を獲る漁であり漁をした後、タキヤ亭と呼ばれるイカダの上で、獲得したエビ等を食べる醍醐味は格別です。

昭和49年の七夕豪雨のがけ崩れにより、家屋の全壊が1件、昭和55年にも同地区で家屋の半壊が1件あり、これを契機に昭和56年に山宮神地区が当町唯一



山宮神地区急傾斜地崩壊防止施設

の急傾斜崩壊危険地域に指定され、県事業として昭和56年度から平成2年度にかけて、整備されました。

今後においても、県等関係機関の皆様

のご支援・ご指導を賜りながら、災害に強い町づくりを目指し努力してまいります。



タキヤ漁の様子

**土砂災害に関する  
絵画・作文・ポスターの募集**

【応募資格】

小中学校生

【課題】

● 絵画

身近で発生した土石流、地すべり、がけ崩れなどの土砂災害の体験やようす、砂防えん堤・がけ崩れ防止施設などの土砂災害防止施設など。サイズ、書き方は自由。

● ポスター

土砂災害の恐ろしさが伝わるもの。または砂防えん堤・がけ崩れ防止施設などが土砂災害防止に役立っていることが理解できるもの。サイズ、書き方は自由。

● 作文

土砂災害に関する体験、土砂災害対策と環境との調和などへの意見、または土砂災害防止施設の見学の感想など。400字詰め原稿用紙5枚以内（ただし、小学校低学年は2枚程度、小学校高学年は4枚程度）。

【応募期間】

平成15年6月1日～9月15日

【応募方法】

作品には応募者の学校名、学年、氏名を明記して下さい。

【応募・問い合わせ先】

〒420-8601 静岡県追手町9-6  
静岡県土木部砂防室 土砂災害対策スタッフ  
TEL (054)221-3042 FAX (054)221-3564



**〈第8回〉富士山への手紙・絵コンクール  
「あなたの心を富士山へ」**

【応募資格】

● 手紙部門/小学生以上 ● 絵部門/資格なし

【作品規格】

- 手紙/官製ハガキ（400字以内）  
※原稿用紙不可、1人1点（未発表のものに限る）
- 絵 /四つ切（54×38cm）  
キャンパスの場合はF10号（53×45.5cm）  
※1人1点（未発表のものに限る）

【応募締切】

平成15年9月16日必着

【応募・問い合わせ先】

〒418-8601 富士宮市弓沢町150  
富士宮市教育委員会 学校教育課「富士山への手紙・絵コンクール事務局」  
TEL (0544)22-1185

**「2005 砂防カレンダー」全国写真コンテスト  
現場周辺の山・谷・川の写真募集**

【応募資格】

なし

【応募締切】

- 夏の砂防/平成15年9月30日 ● 秋の砂防/平成15年12月26日
- 冬の砂防/平成16年3月31日 ● 春の砂防/平成16年6月30日

【サイズ】

四切りカラー写真（四切りワイドを含む）

【入選賞金】

- 優秀賞 四季×3点 計12点（賞金各8万円）
- 佳作賞 若干点（賞金3万円）

【応募・問い合わせ先】

〒105-0004 東京都港区新橋6-13-1  
NPO法人砂防広報センター 砂防カレンダー係  
TEL (03)3459-1591

お・知・ら・せ

● 静岡県支部の会員の皆様へ

砂防関係法令例規集（平成15年度版）と砂防便覧（平成15年度版）が砂防協会本部より発行されましたので、会員の皆様へ配布いたしました。ご活用下さい。

● 「親と子のトンネル・橋梁・砂防見学会」  
の参加者募集

開催日時：8月26日（火） 9：00～15：30  
コース：水窪町「押出沢」、相月トンネル建設現場他  
申込み先：静岡県天竜土木事務所企画検査課  
(0539-26-2496)



【表紙写真】

ひまわり（忍野）

渡辺 仁（富士市）

砂防協会では表紙に掲載する静岡県内の写真を募集しています。皆様のご協力をお願い申し上げます。詳しくは、下記まで問合せ下さい。

平成15年 7-9月

砂防関係の

主な行事

- 7月24～26日 市町村長等砂防事業視察（青森県）
- 8月20日 静岡県支部促進要望（国土交通省、本県選出国會議員）
- 8月19～22日 日本地すべり学会研究発表会及び現地見学会（富山県）
- 8月26日 砂防見学会
- 9月1日 防災の日
- 9月4日 日韓砂防講演会及び韓国の砂防視察（ソウル）

編・集・後・記

「砂防フェスティバルしずおか」が今年も開催されました。当支部では、「土砂災害に関する絵画・ポスター・作文」の表彰式や土砂災害防止啓発グッズなどを作成・配布し、少しでも土砂災害防止の啓発に役立てばと協力しています。今後とも皆様の協力を得て発行が待たれる「砂防だより」にするよう頑張っておりますので、よろしくご指導をお願いします。